

シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第13回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「愛林日」

四月十五日から五月十四日は「みどりの月間」となっており、「緑の募金」運動などが行われています（平成十八年より）。戦前にもこれと似た行事「愛林日」というものがありました。

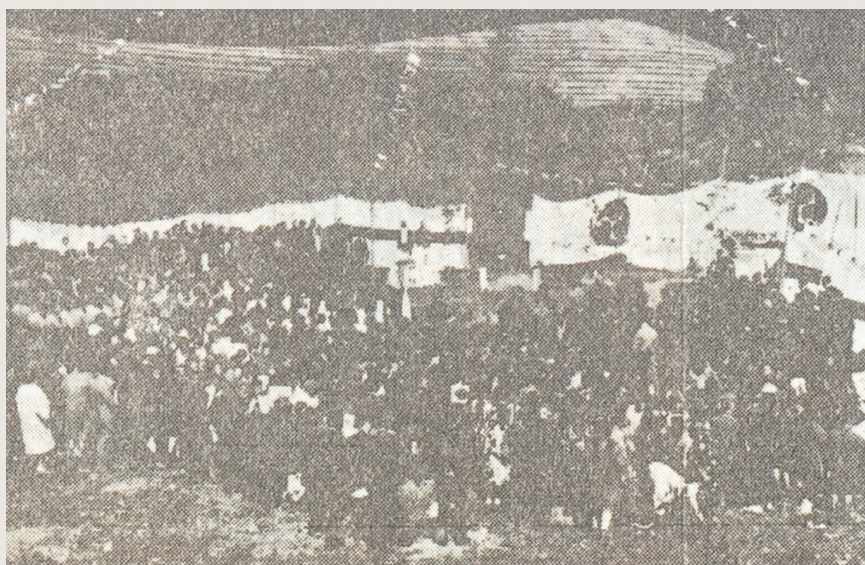
愛林日のパンフレットより（昭和九年）



愛林日は大日本山林会（社団法人）や農林省によって全国的な植樹運動の日として提唱され、昭和九年より実施されました。期間は四月二日から四日で、これは当時の祝日であった神武天皇祭（四月三日）を中心とした日程であった為のようです。愛林日の起源となった行事は更に古

く、明治三十一年にはアメリカの植樹運動に影響を受けて提唱された「植栽日」というものがあつたそうです。

中部森林管理局に残されている昭和九年の岐



岐阜県稲葉郡蘇原村（現在の各務原市）での植樹祭の様子（昭和8年頃）

岐阜でのパンフレットによれば、愛林日には林業に関する講演会、植樹行事、記念樹の植栽、野鳥の繁殖のための巣箱設置、苗木の配布などが行われていたようです。この時代に森林愛護が叫ばれていたということは、既に荒廃した森林が少なくなかったということでもあります。

愛林日のパンフレットより（昭和九年）

**森林の愛護**  
森林は、人類や気象の關係、又は動植物によつて害せられることが多くないのであります。此の内で、氣象の關係や動植物の害に對しては吾々が之を助いでやらねばならぬのであります。事實は往々に反するばかりでなく、人類が自ら自身が、森林や樹木を害することが絶えないのは洵に歎かましいことでもあります。

人類の害の中で最も大きいものは森林火災であります。最近我國に於ては野火の多かつた昭和五年の如きは種々面積が八萬五千歩餘で、被害價格が二百四十六萬圓に上つて居るのであります。野火災の如き人類の害は、民衆一般が氣を付けば決して起らないものであります。何となれば、其の原因の主なるものは、煙火の火、林内焚火、牧野の火入、其の他の失火及び放火であるからであります。斯やうな原因は各自の注意に依つて、絶無にしたものであると思ひます。

要するに國民相率ゐて國土を愛するが爲め、森林を愛護し、林産物たる原料を豊富ならしめ、森林の福利を助長し、以て農山村の更生に資せんことを望んで、茲に愛林日を舉行するのであります。

主 催	大日本山林會
同 後 援	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會
同 同	岐阜縣山林會

愛林日は戦時中に中断されましたが、終戦後に再開され、植樹行事については昭和二十五年から「全国植樹祭」に引き継がれることとなりました。

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコード

を読み込んでください。

